

## 圓策の異義

松谷 了玄

私は圓策の宗學について次の如き三の點を指摘したい。

(一) 從來、圓策の宗學は三業歸命説であると言はれてゐるが、然しながら師の宗學は三業歸命説であるばかりでなく、口稱歸命説でもあり、稱名願體説でもある。

(二) 從來、圓策の三業歸命説と寂賢の三業歸命説と同一視せられてゐるが、決して同一でない。

(三) 從來の異安心研究の諸著は圓策を殆んど問題にしてゐないが、異安心研究に携はる者は輕視してならない存在である。

(一) について。從來の異安心を論ずる著作は口稱歸命・稱名願體・三業歸命・稱名正因・一念九念の計・信一念の覺等の異義を個々別々の異義として取扱つてゐる如き感を懷かせるのである。然しながら此等の一々を吟味すれば、此等は決して全然別種の考に基けるものでなくて、一脈關聯あることが知られる。それ故、

概ね或る一人がその幾つをも主張してゐるのであつて、一人一説であることが少い様である。圓策の宗學について從來三業歸命説のみが着眼せられて來たが、師は三業歸命説でもあり、口稱歸命説でもあり、稱名願體説でもあつて、師に於て此等三者が別々のものとならず、一つに融會してゐる。

(二) について。圓策と寂賢の三業歸命説について次の如き相違が見出される。

(A) 寂賢の三業歸命説は「御文」に、圓策は善導・源信、或は餘乘に重點を置いて論じてゐる。(B) 寂賢は三業揃はねば一念歸命でないと言き、圓策は揃はねばともよいと述べることもある。(C) 寂賢は一念歸命の儀式を行つたが、圓策は斯ることをしてゐない様である。(D) 寂賢は一念九念の計を説くが、圓策では不明瞭である。(E) 寂賢は信一念の覺を主張するが、圓策は此の問題にふれてゐない。

(三) について。大派に於て三業歸命を主張した人は圓策・寂賢の他に、法幢・山科閑栖寺がある。西派に於ては峻諦・芳山・功存・智洞等が擧げられる。其等の

人々の中で最も時代の早いのが圓策である。されば三業歸命を論ずる時は先づ圓策に着眼すべきである。私は三業歸命を主張した人々は多少にかかはらず圓策の「選擇集聞香記」の影響をうけてゐるのでなからうか、而して現十の稱名願體説も圓策の影響ではなからうかと思ふ。終

## 法華經譬喻品について

——光宅・天臺・太子——  
の註疏による

松見 得忍

聖德太子の佛教がその理解に於て獨創的でありそれが日本佛教の根源であること從來言はれてゐる。その點については正しい。然し特に法華經の註疏についてみるとそれは主に光宅の註疏と比較しての結論である。ところが太子の註疏と天臺智顗の法華文句とを比較して見ると兩者の間には多くの類似點が見出される。このことは既に傳教の直弟であつた光定が一心戒文の中に「今太子所製經疏等開三顯一之句、本門迹門之言人一、教一、之義行一、理一之道與天臺教一觸類皆同無有差異」と述べてゐることによつ